

令和8年度星野地域水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

星野地域の水稲は、その生産基盤が山あい広がった棚田状の水田が多く、基盤整備は限られた地域のみでほとんど進んでいない。機械の保有も一農家一台という状況の中、効率化・省力化が重要な課題となっている。また、栽培効率の悪さや高齢化から遊休地化の傾向が強まっており、地形条件・営農条件等不利な水田については、将来荒廃する可能性があることから、荒廃防止に対する指導が必要である。

水田農業の主力は水稲でありその多くが主食用米であるが、緑花木の作付や本協議会が振興作物として位置付けているイチゴやなす等の野菜類、切枝（花）や菊等の花卉類の作付についても、普及・拡大に努め、農家の所得向上を図る必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が減少する中で主食用米以外の作物への転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。星野地域は、中山間地域であり麦・大豆の作付け面積がほとんどなく、主食用米からの転換作物として、花木や野菜の導入にて、高収益作物の拡大を目指している。

特にサカキなどの切枝、イチゴやなすなどの野菜については、福岡八女農業協同組合が作付拡大の取組をしている品目であるため、福岡八女農業協同組合等と連携し、産地交付金を活用することで、さらなる面積の拡大を目指している。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

生産者からの営農計画書の記載事項や水田台帳に基づくほ場の現地確認等により、水田利用状況の点検を行う。その結果、施設野菜や茶など今後も水稲作付の見込みがない水田について、水田の畑地化について検討・推進を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産及び適地適作を基本とした良食味品種の作付拡大を図るため、共同育苗の推進及び種子更新の完全実施を進める。生産コストの低減や省力化を図るため、機械の共同化や農作業の受委託、担い手への農地集約を図りつつ米の生産を行う。

(2) 高収益作物

ア イチゴ、なす、トマト、菊

県内外の市場や直売所等への販売を強化しながら、中山間地域の特性を生かし、少量・多品種生産を行うことで、収益性を高める取り組みを行っている担い手を支援し振興作物を定める。

イ ベチバー、ズッキーニ、アスパラガス

生産団体や営農組織等と連携し、星野地域の新規振興品目として奨励するとともに、産地交付金を活用し担い手による作付けを支援する。

ウ ニオイヒバ、ブルーベリー、サカキ、茶

中山間地域の条件を活かした花き（切枝類）についても産地交付金を活用し、収益性の高い農業経営を目指し、作付面積の維持・拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

6 課題解決に向けた取組及び目標

別紙のとおり

7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	53.6		54.2		54.2	
高収益作物	29.6		30.0		30.9	
・ 野菜	2.1		2.2		2.4	
・ 花き・花木	27.2		28.0		28.2	
・ 果樹	0.3		0.3		0.3	
その他	10.6		11.2		11.5	
・ その他	10.6		11.2		11.5	
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目 標	前年度（実績）	目標値
1	イチゴ、なす、トマト、 菊、ペチパー、ズッキー ニ、アスパラガス	星野地域振興作物助成 （基幹）	作付面積（ha）	（令和7年度） 2.3ha	（令和8年度） 2.4ha
2	ニオイヒバ、ブルーベ リー、サカキ、茶	地域振興作物（基幹）	作付面積（ha）	（令和7年度） 37.7ha	（令和8年度） 40.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要
都道府県名:福岡県
協議会名:星野地域水田農業推進協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	星野地域振興作物助成(基幹)	1	49,000	イチゴ、なす、トマト、菊、ペチパー、ズッキーニ、アスパラガス	作付面積に応じて支援
2	地域振興作物(基幹)	1	15,000	ニオイヒバ、ブルーベリー、サカキ、茶	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。
※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。